

平成29年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業計画書

【基本方針】

平成29年度は、平成30年11月に当館で開催する「第10回世界水族館会議」を成功させるため、福島県やいわき市を始めとした関係機関等と緊密な連携を図りつつ開催準備を進める大切な1年となります。

平成29年2月末時点での入館者数は、震災前の平成22年度同期に比べ、43.8%減の477,357人と、依然として厳しい状況が続いております。この状況を打破するため、引き続き「海を通して人と地球の未来を考える」という基本理念を堅持し、生物の生息環境を再現した常設展示の充実を図ります。その一環として、「ふくしまの海」エリアを全面的に改修する計画です。潮目の海の豊かさを深海性生物の展示などを充実させることで独自性を磨き、魅力を引き出すことにより、ふくしまの海に対する正しい理解と情報発信に努めることにより、原発事故後の福島の水に対する理解と安全性の不安を払拭することが可能となるでしょう。

海・山・川の循環のあり方や自然環境の保全、自然の持続的な利用について考える場としてオープンした屋外展示施設「わくわく里山・縄文の里」では、新たにカワネズミやヤマドリ等の小形哺乳類や鳥類の展示を行い魅力ある展示となるよう努めてまいります。

また、社会教育施設として、学校や他の文化施設等との連携を図り、「持続可能性」及び「命の教育」を基本とした「教育プログラム」を強化し、子どもたちが「自然への扉」を開く体験学習の場として利用できるように努めてまいります。

水生生物保全センターでは、いなわしろカワセミ水族館とも連携し、採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究行い、新展示開発につなげるとともに、県内外の希少生物の域内保全に取り組みます。

これらの取り組みにより、「行動する水族館」Inspiring Aquariumとして、内外から高く評価される施設を目指すことにより、当面60万人を超える入館者数を目標に事業を展開してまいります。

1 アクアマリンふくしまの戦略2017「AMF Strategy」に基づき、震災以降低迷している入館者数の回復を図るために、来館者のニーズを的確に把握し、サービスの向上につとめ、完成度の高い環境展示を実現し、活力ある水族館運営を目指します。

AMF Strategy :

- ①プロローグの生物進化のストーリー強化
- ②Happy Oceans戦略の拡大
- ③域内保全活動の強化
- ④ボランティアとの連携強化
- ⑤七つの海の水族館ネットワークの拡大
- ⑥パスポートホルダーの拡大
- ⑦伝馬船工房及び伝統農産物販売による伝統技術継承・自然環境保全

- 2 第10回世界水族館会議に向けて、関係機関との連携・協力により具体的な開催準備を進めていきます。
- 3 東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質の影響を調べ、来館者への情報提供を行うことによって、正しい放射線の知識の普及に努めます。
- 4 みなとオアシス計画の一環としてナツメヤシ露地栽培実験および地元産樹木を育成し海岸林をつくる須賀プロジェクトを推進します。
- 5 ミュージアムショップ及びレストラン事業は展示の延長として位置づけ、海洋保全に資する教育普及のための情報発信を行いつつ、展示に関連した商品やメニューを開発し、来館者のニーズをとらえ、収益増を図ってまいります。

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 生物収集事業

展示及び研究目的のための生物の採集、購入及び輸送を以下のとおり施行する。

① 淡水生物収集	4月～12月, 3月
② 沿岸生物収集	周年
③ 深海性生物収集	周年
④ 北方系生物収集	周年
⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集	周年
⑥ 植物	周年
⑦ 蛇の目ビーチ生物収集	周年
⑧ アクアマリンえっぐ展示生物収集	10月～3月
⑨ 保全センター砂漠系生物収集	周年
⑩ わくわく里山・縄文の里生物収集	周年

※ 平成28年度末時点での展示規模は、以下のとおり。

水槽数（小型水槽は除く）

・本館	82槽
・BIOBIOかっぱの里	1槽
・蛇の目ビーチ	1槽
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」	28槽
・水生生物保全センター（砂漠展示）	1槽
・クウェート・ふくしま友好記念日本庭園	2槽
・わくわく里山・縄文の里	2槽
合計	117槽

(2) 南方系生物蓄養事業

南方系魚類（黒潮水槽及びサンゴ礁水槽展示生物）を収集し、現地の海上生け簀にて蓄養し輸送する。

○ 奄美大島：キハダ、カツオ、メバチ、ギンカガミ、サンゴ礁生物他

(3) 水生生物保全センター運営事業

水生生物保全センター（本館及び串本分館）では、採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究を実施し、新規の展示開発に取り組む。

- ① 深海性生物の収集調査を行い、新規展示生物の開発に取り組む（アオメエソ、サメ類、ハダカイワシ、アカマンボウ他）
- ② 県内希少生物の繁殖：シナイモツゴ、ゼニタナゴ、イトヨ、メダカ、タガメ他
- ③ 熱帯植物の蓄養栽培：マングローブ植物他
- ④ クラゲ類、ハゼ類等その他生物の飼育繁殖研究
- ⑤ 天然記念物に指定されている沼の内弁財天賢沼の大ウナギをシンボルとした「弁財天うなぎプロジェクト」により、阿武隈域内保全活動として域内希少淡水魚調査、ウナギ生態調査に取り組む。
- ⑥ レッドデータブックふくしま改定、およびその調査への協力
- ⑦ ラブカ研究プロジェクトにおいてラブカ胎仔の育成実験を行う。

(4) 飼育生物管理事業

本館収容生物（植物を含む）の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチ、クウェート・ふくしま友好記念日本庭園、わくわく里山・縄文の里の環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。

2 移動水族館事業

移動水族館専用車（アクアラバン）により、広域な圏内の各地域・各施設のイベント等に出展し、普段当館に足を運ぶことができない人にも海の生物に親しむ機会を提供し、自然の事象への興味、関心を高めてもらうとともに、開催地における地域振興に貢献する。あわせて、パスポート販売等、集客戦略の一つとして位置づける。

3 研究交流事業

(1) 学会・研究会等参加事業

- ① 学会及び各種研究会へ参加し、先進技術の情報収集を行い、当館の展示並びに教育普及活動に反映させる。

(2) 友好締結園館交流事業

新たに北京海洋館、上海海洋水族館、中国科学院水生生物研究所と友好締結を行う。

また、友好締結園館（東京都葛西臨海水族園、モンレー湾水族館、香港オーシャンパーク、パラオ国際サンゴ礁センター、新潟市水族館マリニピア日本海、クウェート科学技術研究所、ボルチモア水族館）との生物及び技術交換等の交流事業のみならず集客の手段としても展示交流を実施する。

(3) 放射性物質調査研究事業

東京電力福島原子力発電所事故により放出された放射性物質に関する調査を、金沢大学、水産総合研究センター、木戸川漁業協同組合他と共同で実施する。風評被害払拭のための重要な事業であることを認識し、環境水族館にふさわしく海山川の汚染の推移を把握し、情報発信する。

(4) 海外交流事業

世界各国の水族館関係者が集い、飼育技術に関わるもののみならず、一般生物学、生態系保全、施設管理、教育、経営など多岐にわたる分野の情報交換を行う「世界水族館会議」を平成30年度に当館で開催するため、第10回世界水族館会議実行委員会及び委員会事務局として、を組織し、関係各機関と開催準備を進める。本事業を通じて、原発の事故の実態を広く海外の水族館人に普及する。

4 海洋文化推進事業

(1) シーラカンス調査事業

シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、シーラカンスの生息地であるインドネシア諸島周辺、アフリカにおいて調査研究を行う。現地研究機関や大学と相互協力し、シーラカンス研究グループを組織し、本研究が、サンゴ礁の域内保全活動の一環であるとの認識を共有する。

- ① インドネシアシーラカンスの生態について新たな知見を得られるよう、継続的なシーラカンス調査を実施する。
- ② インドネシア、アフリカ調査で得られた結果を、館内の展示を通して来館者に知らせる。また、シーラカンス研究活動において共同研究している大学等の研究機関と共に、学術的な成果を館内及び館外で報告する。
- ③ インドネシアにおいて「アクアマリンふくしま海洋保全センター」を運用し、サンゴ礁生物をはじめ、シーラカンス等の生態系保全を行い、調査研究の効率化と推進を図る。
- ④ スリランカにおけるシーラカンス分布の可能性を探るため、スリランカの研究機関と協力し、シーラカンスの分布調査を進める。

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

魅力あるイベント開催等により来館者サービスの向上や誘客促進に努める。

① サービスの充実

高齢者から幼い子ども、身体障がい者まで全ての来館者が快適に過ごせるような設備の充実とサービスの向上に努める。高い接客技術を有するスタッフを館内各所に配置して、迅速かつ丁寧に来館者の要望やクレームに対応し、満足度を向上させるためのサービスの充実を図る。

さらに、接客や来館者アンケート等により得た来館者の要望や評価を把握し、サービス向上に反映させる。

② 館内案内の充実

館内案内リーフレットを配置し、来場者の観覧を支援するとともに、館内プログラムの情報を提供することで、来場者の利便性向上を図る。リーフレットは海外の来場者も利用できるよう、多言語のものを作成して配置する。

③ 年間パスポートの販売促進

リピーター対策として1年間何度も利用できる年間パスポートを販売し、その特典を充実させることでリピーター確保と満足度向上を図る。

④ 通年開館

誰もが年間を通して曜日を問わず来館できるよう年中無休で開館する。

⑤ 催事の開催と開館延長

年間を通して季節ごとに多彩なイベントを開催し、誘客に結びつける。また、ゴールデンウィーク、お盆期間、クリスマス期間及び夏休みの土日祝日においては、開館時間を延長してより長く館内で楽しんでいただくとともに、各種催事を実施することによって誘客促進や来館者サービスの充実を図る。

⑥ マスコットキャラクターの開発と活用

シーラカンスをイメージした当館オリジナル着ぐるみキャラクター「権兵衛」などを活用して、積極的に館内での来館者とのふれあいやイベント出演によるサービスの充実を図る。また、館外において誘客活動を行うため、時代に適した新キャラクターの開発に努める。

(2) 広報宣伝事業

当館の常設展示や体験プログラムの特色を積極的にアピールする。イベントや企画展示の開催について、パブリシティを活用した広報活動と各種媒体による広告宣伝を積極的に展開する。来館者の増加につなげるような基本方針を共有する。

① パブリシティを活用した広報活動

広告料を必要としない媒体の活用や広報活動を積極的に行う。

- ア マスコミ各社に対する情報提供、テレビ・ラジオ等への取材対応・出演
- イ 県内外の新聞、旅行誌、タウン誌等への情報提供
- ウ 観光施設、公共施設へのチラシの配布、配置
- エ 市内小学校児童へのチラシ配布

② 広報媒体による広告宣伝

各種広告媒体を精査し、県内外で費用対効果の高い広告宣伝を行う。

- ア 県内及び隣接県でのテレビ・ラジオCMの放送
- イ 県内及び隣接県での新聞、情報誌等への広告掲載
- ウ 交通広告や旅行雑誌、フリーペーパーへの広告掲載等

③ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した広報宣伝

商業施設や観光地、各種イベントで、積極的に移動水族館を開催し、広報活動を行う。

④ 各種観光イベント等への参加

主に首都圏を中心とした県外での観光イベントに参加し、移動水族館やプロモーション、チラシ配布による広報活動を行う。

⑤ ホームページ（スマートフォンサイト含む）の充実による広報宣伝

ホームページとフェイスブック、ツイッターを活用し、タイムリーな情報提供を行う。また、外国語ページも充実させ、海外へも積極的に情報発信する。

⑥ マスコットキャラクター「権兵衛」ほかによるPR活動

観光イベントや移動水族館にて権兵衛が積極的にPR活動に参加する。

(3) 観光誘致事業

6年を経て、東日本大震災及び東京電力福島原子力発電所事故による影響を勘案しつつも、新たなニーズや東南アジア諸国からの誘客に対応するために旅行エージェント等と積極的に連携し誘客活動を展開する。

① 旅行エージェント営業

韓国、中国、台湾、東南アジア諸国からの誘客に対して積極的に旅行エージェント等に提案型の営業を行う。また、被災地学習を目的とした団体旅行をターゲットとした震災ガイドランスを含む当館への見学の受け入れにも対応する。

- ② 近隣観光施設等との連携による誘客活動
近隣宿泊施設と食文化を表に出して連携した誘客活動を積極的に行う。また、近隣観光施設や県内観光地と連携して回遊性のある企画に参画する。
- ③ 磐越道沿線施設連携事業の推進
いわきと新潟をつなぐ磐越自動車道沿線の文化施設との連携により共同割引券、広域から誘客活動を積極的に推進する。
- ④ 企業の団体旅行誘致や福利厚生事業への参画
企業等への営業により、団体旅行の誘致や前売券の利用を促す。
- ⑤ 学校団体の誘致
震災以降、県外学校団体の利用が激減しているため、教育委員会や学校を積極的に訪問し、誘致を行う。特に県が積極的に誘致を行なっている九州方面からの教育旅行営業を強化する。

(4) 地域交流事業

地域に根ざした施設づくりを進めるとともに、様々な機会を通して地域との連携を深め、人・モノ・情報の交流を活発にして地域の活性化と魅力的な地域づくりに努める。

- ① 小名浜まちづくり市民会議への参画
いわき花火大会への協賛など小名浜まちづくり市民会議の事業に積極的にかかわり、小名浜地区の地域活性化に貢献していく。イオンモールいわき小名浜（仮称）の開業に向けたまちづくりにも積極的に参画していく。
- ② 地元漁業の復興支援
地元漁業の再開に貢献するため、漁業をPRするイベントの開催や、地元漁協及び水産系高校の活動支援を行う。
- ③ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した地域交流の推進
主に県内の文化施設を中心として誘客に貢献することを目的に、移動水族館を開催する。
- ④ いやし水族館（水槽レンタル）事業
病院や観光施設、官公庁をはじめ様々な施設に有料でクラゲ等の水槽を設置する事業を進め、地域の交流場所に癒しの展示を提供する。

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

「わくわく里山・縄文の里」をはじめ、「BIOBIOかっぱの里」や「蛇の目ビーチ」を活用し、「海、山、川」のつながりの重要性を来館者に伝えるため、多様な自然体験活動を提供するとともに、東日本大震災で大きなダメージを受けた福島県の自然環境の再生に寄与できる人材の育成を図る。このために関係団体やNPO等とも協働してワークショップを定期的で開催する。

(2) 企画展開催事業

来館者サービス向上と館の広報を兼ね、常設展示と異なる展示テーマを定めた企画展示を以下の内容で実施する。

- ① 小名浜国際環境芸術祭
 - ア 期間：平成29年9月16日～平成29年11月23日
 - イ 概要：大漁旗をテーマとしたデザイン展を実施し、芸術を通して環境保全のメッセージを発信するとともに、芸術による地域交流を図る。

② キッズアート展

ア 期間：平成29年9月16日～平成29年11月23日

イ 概要：期間中に館内で子どもを対象としたアートのワークショップを開催する。

③ 海の男たちの盆栽展

ア 期間：平成29年10月28日～平成29年11月3日

イ 概要：黒松等の古木の迫力ある作品や秋の草花等による作品を展示する。

(3) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行う。

- ① オセアニックギャラリーやアクアマリンえっぐ等の情報の更新や展示の拡充、展示機器の故障への対応を行う。
- ② 弁財天うなぎプロジェクトコーナーにおいては、ウナギの生態調査を継続して行い、来館者へ情報を提供する。
- ③ 各種パネルや種名ラベルの更新を行い、来館者へ常に最新の情報を提供する。
- ④ 東京電力福島原子力発電所事故により放出された放射性物質に関する内容の展示を行い、風評被害の払拭に努める。
- ⑤ えっぐの森を体験活動の場として展示を充実させ利活用の促進を図る。
- ⑥ 「ふくしまの海」エリアの改修を行い、深海生物展示の充実を図ります。

(4) 学校教育関連事業

学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。また、学校教育に基づく活動の利用による減免制度の特性を維持する。

- ① 教職員セミナーを実施（8月中に3回開催）する。
- ② ゲストティーチャーを実施する。
- ③ 教材等の貸し出しを実施する。
- ④ アクアマリンふくしまの利用案内をするガイダンスや館内の展示を活用した館内学習を実施する。
- ⑤ バス（トムソーヤー）とマイクロバスを活用し、いわき市内の小規模校の児童、生徒を送迎して館内で学習をさせる館内学習支援事業を実施する。（年度内10回程度）
- ⑥ 移動水族館専用車（アクアラバン）を運行し、学校や社会教育施設を対象とした移動水族館を開催する。
- ⑦ キッズアート展を開催し、環境芸術祭に合わせテーマを決めて集めた子どもたちの作品を館内において展示する。
- ⑧ 教員専用のホームページを作成し、館内学習の内容や学校対象の催しなどの情報提供を行うなどITを活用した学校の利用促進を図る。

(5) 情報提供事業

インターネットや機関誌を利用して、館内活動状況、水生生物及び海などに関する情報を提供する。

- ① インターネットによる情報発信
ホームページのほか、ツイッターやフェイスブックにより随時情報を発信する。
また、ホームページの情報について、中国語と韓国語の内容を充実する。
- ② 機関誌（AMF NEWS）の発行
半期ごと年4回発行する。

7 スクール開催事業

(1) スクール開催

事前募集をした参加者を対象に命の教育をテーマとした多様なプログラムを提供する。子どものみ、大人のみ、家族等対象の異なったプログラムを月2回、年24回程度開催する。

例) 宿泊スクール、ナイトツアー、陶芸教室、飼育体験、漁業体験他

(2) 釣り、調理体験

えっぐの釣り場でアジやギンザケを釣らせ、調理体験スペースや蛇の目食堂を使用し、釣る、調理する、食べるを子どもたちに体験させ、命を頂戴する意味を五感をとおして考える機会を提供する。

(3) うおのぞき体験活動

子どもたちに水産物の利用や水産加工の伝統を継承するため、アクアマリンえっぐ内に平成27年度に機能を移設した子ども漁業博物館うおのぞきの体験活動として以下のプログラムを実施する。また、新たな体験活動の実施を模索する。

・炭火焼体験、かつお節削り体験、エサやり体験、缶詰づくり体験、利き出汁体験

(4) えっぐワークショップ

アクアマリンえっぐ内のワークショップコーナーにおいて、当館のボランティアの指導による有料の工作を開催する。

(5) 他団体との連携

全国のNPOやボランティアと協働してワークショップや移動水族館等を行い、いわき市内をはじめ県内外の被災地の子どもを元気づけるために多様な支援活動を実施する。

8 ボランティア等活動事業

(1) ボランティア活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進する。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供する。

① バックヤードツアーの実施

② 縄文のゲートに、全体の案内コーナーをもうけて、「緑の水族館」の動線に沿った展示の案内をする。

③ 動線の延長に応じた案内スポットでの情報提供をボランティアと協働で開発する。

④ アクアマリンえっぐにおける工作や釣りの指導。

⑤ うおのぞきにおける炭火焼等各種体験の指導

⑥ アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションを中心とした展示解説や体験活動の支援

⑦ 館内各所におけるスポットガイド（シケーダーガイド）の実施

⑧ 企画支援（サメカブト等の工作支援）

⑨ 研修の実施

接遇研修、Q & A研修、バックヤード研修、他館視察研修等ボランティア各個人の経験に合わせた研修を実施する。

⑩ AMFV調整会議の開催

財団とボランティアの会、海星高校等関係者を集めてボランティアの活動内容や活動方法等につき意見交換を行い、よりよい活動の実現を目指し、年4回程度調整会議を開催する。

(2) 生き物相談員（チューター）の配置

ボランティア会員より選考した者を相談員として配置し、来館者の観覧支援に当たる。

9 施設管理事業

開館17年目を迎え、施設の経年劣化による事故・障害の防止を図るため、「ふくしま海洋科学館の管理に関する基本協定書」に基づき、県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。

省エネルギー対策としては、エネルギーの使用状況を詳細に把握することにより、効率的な熱利用を行う。同時に廃熱の回収や熱ロスと外気温からの影響の低減を目標に、既存設備の改修を計画する。また、電力自由化を踏まえ、他の電力会社との契約について継続して調査検討を行う。

さらに、地震・津波により被害を受けた各施設について、原因と対応策を検討し、今後起こりうる災害にも対応できるよう整備を行う。

その他、海・生命の進化、ふくしまの海の展示設備の見直しについて検討実施する。

(1) 主要維持管理施設

○いわき市小名浜字辰巳町地内

① ふくしま海洋科学館

本館等敷地面積	56,189.52㎡
本館延床面積	12,935.11㎡
水生生物保全センター延床面積	925.09㎡
子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70㎡
屋外便所延床面積	106.18㎡
温室	52.54㎡
わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56㎡

② 駐車場関係

施設外駐車场面積	12,093.81㎡
----------	------------

○いわき市小名浜下神白字松下地内

① 海水取水・送水施設

ろ過送水棟敷地面積	665.54㎡
ろ過送水棟延床面積	180.04㎡
取水ポンプ棟敷地面積	238.29㎡
取水ポンプ棟延床面積	84.43㎡
取水管（管径 350mm）	182.20m
揚水管（管径 300/350mm）	146.00m
送水管（管径 250mm）	2,885.64m

○和歌山県串本町

① 水生生物保全センター分館

延床面積	186.00㎡
------	---------

(2) 来館者用駐車場の確保

来館者に対応できる駐車場を確保する。

- ① オアシス駐車場 281台（うち身障者用5台、バス15台）

- ② 公共駐車場 472台（うち身障者用17台）
- ③ 臨時駐車場 200台（小名浜港湾建設事務所から随時借用する）

- * 駐車場合計 953台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」は、福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開する。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の淡水魚、は虫類、両生類、鳥類等の保全と調査研究を行い、情報発信に努める。

（1）施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00㎡
猪苗代町緑の村釣堀、鑑賞池	10,000.00㎡
猪苗代町淡水魚館	605.10㎡

（2）展示事業

- ① 猪苗代湖と裏磐梯湖沼群のパネル展示
- ② 淡水生物の分布について的水槽展示及びパネル展示
- ③ 外来生物の水槽展示
- ④ 希少淡水生物繁殖保全水槽
- ⑤ カウソ・カワネズミ等の展示
- ⑥ アクアマリンふくしま企画展示

※平成27年度末時点での展示水槽数

海水生物水槽	1槽
淡水生物水槽	143槽
合計	144槽

（3）体験プログラム

- ① 釣り体験の実施
- ② 参加体験型展示と映像を放映
- ③ 館内オリエンテーリングの実施
- ④ 館内ワークショップの実施

（4）情報発信

各種展示を通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水生物の繁殖・保全を来館者に対して情報発信する。

（5）ボランティア活動

- ① 館内解説補助
- ② 釣り堀運営支援
- ③ 来館者の参加体験支援

Ⅱ 収益事業

ふくしま海洋科学館における収益拡充のため、ミュージアムショップ及びレストランの機能を充実させ、サービス向上に努めるとともに、健全経営に資する事業として来館者単価の向上を図る。

1 ミュージアムショップの運営

売上げ状況の分析による販売商品の定期的な見直しを行うほか、試作・検証を十分に行いながらオリジナル商品の開発に積極的に取り組む。

また、常設展の新規展示や企画展と連動した商品を販売したり、店内のディスプレイや季節演出等によりミュージアムショップの魅力を高め、売り上げの増加を図る。

3店舗をそれぞれ商品構成で差別化を図り、来館者の購買意欲を高めることで、購入単価の増加を図り、売上の向上につなげる。

2 レストランの運営

レストラン「アクアクロス」は、漁業資源の保全をテーマとした「HAPPY OCEANS」活動の普及拠点としての役割を担うとともに、「おいしい水族館」を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、かつ時季に合ったメニューや地元ならではのメニュー等も開発し、来館者の利用促進、満足度向上を図る。また、団体客向けのメニューを開発して収益を確保するなど、売上増と効率的な経営を目指す。

また、館内2階潮目の大水槽前では、話題性の高い寿司処「潮目の海 HAPPY OCEANS」を営業して収益増を図りながら、漁業資源の利用についての問題提起を行う。

3 イブニングイベント事業

(1) 「アクアマリン竜宮城」

潮目の大水槽前等の空間をイブニングイベントとして提供することにより、閉館後の館内の利用、来館者サービス及び満足度の向上を図り、利用頻度の向上とともに収益増を目指す。

(2) 「雑魚を美味しく食べる会」（略称「雑魚の会」）

雑魚のブランド化及び地域の施設、団体、メディア、企業などの交流の場を設けることを趣旨とした会を年12回開催する。